



ピースデポ 平和資料協同組合

Peace Depot (Peace Resources Cooperative)

発行人: 鈴木達治郎 / 住所: 〒223-0062 横浜市港北区大豆戸町 1020-5 第4 西山ビル 304
TEL: 045-633-1796/FAX: 045-633-1797/E-mail: office@peacedepot.org
郵便振替: 00250-1-41182 特定非営利活動法人ピースデポ
銀行口座: 横浜銀行日吉支店 普通 1561710 特定非営利活動法人ピースデポ

会報

No.56

2025.6.1

逆風の時だからこそ

代表
鈴木達治郎

4月1日に代表に新たに就任いたしました、鈴木達治郎です。長崎大学核兵器廃絶研究センターに2014年から2025年3月まで11年間勤めました。なかでも、梅林宏道前センター長の後を継いで、15～19年までセンター長を務め、その後も北東アジア非核兵器地帯を目指すプロジェクトに主に従事して参りました。市民による、市民のためのシンクタンクとして、継続して成果を上げてこられたピースデポの活動には以前より注目しており、その伝統を守りつつ、新たな展開を目指して努力して参りますので、よろしくお願いします。

さて、世界の安全保障環境は、おそらく戦後最悪とも言える状況にあります。この背景には、核兵器国間の対立とそれに伴う「核軍拡」が進んでいるという事実があります。さらに、ウクライナ、ガザ、インド・パキスタンと、核兵器を所有する国が関与する軍事対立が続いています。日本周辺地域でも中国、北朝鮮の核兵器戦力が強化され、それに対応して日韓米の拡大核抑止力も強化されて緊張が増えています。抑止力強化は、かえって緊張を高めることにつながり、戦争や核兵器使用のリスクを高めます。現実の軍事紛争のなかで、ロシアが「核兵器使用の威嚇」を繰り返し公言し、中国を除く核保有国は「先制使用を辞さない」政策を堅持しており、核使用リスクはますます高まっています。これに加え、サイバー兵器や人工知能(AI)の応用など、核抑止の信頼性そのものへの信頼性が崩れかけており、人類はこれまでにない「核の脅威」にさらされているのです。

こんな時に軍縮や平和を語るのは、平和ボケか理想論者だと批判されがちですが、私たちはそうは考えません。軍縮の歴史を見れば、安全保障環境が厳しい時こそ、軍縮への努力が進み合意に達していることが多いのです。キューバ危機後の部分的核実験禁止条約、冷戦ピーク時のINF条



約がその良い例です。そのためには、対話を通じて安全保障環境の緩和をめざさなくてはなりません。

地域の安全保障環境を改善する前例として、東南アジアの経験を学ぶことができるかもしれません。ベトナム戦争が終了した直後の東南アジア諸国連合(ASEAN)では、「対立から友好へ(From Enmity to Amity)」を合い言葉に、「東南アジア友好協力条約(Treaty of Amity and Cooperation: TAC)」を1976年に締結しました。加盟国はお互いの主権を尊重し、武力行使の放棄などを原則として明記しています。条約は地域外にも広がり、中国(2003)、日本・韓国・ロシア・パキスタン(2004)、北朝鮮(2008)、米国(2009)も参加しています。TACにより地域の信頼関係が醸成され、その努力が東南アジア非核兵器地帯条約(バンコク条約)(1997年発効)に繋がりました。TAC発効から20年もの地道な外交努力が実らせた素晴らしい成果といえるでしょう。

北東アジアにおいても、そのような外交努力が今こそ求められます。私たちが目指す北東アジア非核兵器地帯の締結まで、長い道のりかもしれませんが、諦めずに活動が続けていきましょう。

ピースデポ第26回総会記念講演会

被団協の歩みとノーベル平和賞

講師：^{まさこ}和田征子（日本被団協事務局次長）

対談聞き手：浅野英男（核兵器をなくす日本キャンペーン・コーディネーター）

今年の総会記念講演会は、「被団協の歩みとノーベル平和賞」というタイトルのもと、2024年度ノーベル平和賞受賞の日本被団協・事務局次長の和田征子さんと核兵器をなくす日本キャンペーン事務局の浅野英男さんのお二人にお話をいただきました。お二人は3月3日～7日にニューヨークで開催される核兵器禁止条約締約国会議にご出席のため一週間後には渡米をお控えの慌ただしいなかでのご登場でした。ノーベル賞授賞式のオスロからご帰国後の和田さんは、政府、自治体、さまざまな団体へのお礼、報告、講演会続きのお疲れもみせず、この日も穏やかな優しい語り口で、核兵器廃絶への熱い思いを語られました。ご自身も長崎での被爆が一歳半の時ということで被爆者として証言されることに躊躇があったとのことですが、サーロー節子さんに励まされ、お母様の生々しい被爆体験を、誇張や脚色することなく、聴いたままに語ることにつとめていますとの

ことでした。若者世代代表の浅野さんはアメリカの大学で核問題や軍縮を学んだ立場で、これからの運動について和田さんと語り合ってくださいました。会場からは神奈川での高校生平和大使の活動紹介もあり、核兵器廃絶への皆の思いが一つになった講演会となりました。（山中悦子）



2025 年の主な事業計画

2025 年度事業計画

§1 事業分野

- 1 『脱軍備・平和レポート』（DP レポート）の発行
- 2 『ピース・アルマナック 2025』発行及び 2026 年版の刊行
- 3 脱軍備・平和基礎講座の継続
- 4 その他の活動
 - ・スタッフの啓発・教育と人的交流のための海外派遣
 - ・「核兵器廃絶日本NGO連絡会」の活動への参加
 - ・アボリション 2000 への参加
 - ・核の先行不使用を世界規模で呼びかける NFU グローバルへの参加
 - ・核軍縮・不拡散議員連盟（PNND）支援
 - ・グローバル・アライアンス「持続可能な平和と繁栄をすべての人に」（GASPPA）——広島県へいわ創造機構ひろしま（HOPe）が呼びかけたポスト SDG s に核廃絶を入れることをめざす国際市民社会グループ——への参加を継続
 - ・北東アジア非核兵器地帯設立をめざす国際市民連合（C3+3）及び「北東アジア非核兵器地帯条約を推進する国際議員連盟」（P3+3）への支援

・第26回総会記念講演会の開催

§2 事務所活動

- 1 ウェブサイトの整備と維持
- 2 ピースデポ「7本の柱」・次世代基金（梅林・湯浅基金）の運営
- 3 非核化合意監視プロジェクトの頻度を抑えての継続『朝鮮半島情勢クロニクルー北東アジアの非核化と平和をめざして』作成の継続

§3 組織体制

- 1 運営委員会の継続
- 2 スタッフの勤務体制と役員体制
- 3 「組織強化イニシャチブ」の継続
- 4 会員、定期刊行物購読者の拡大
- 5 他機関との研究調査協力
- 6 持続可能な助成財源である「よこはま夢ファンド」への協力者の拡大
- 7 助成金・調査委託及び寄付金の継続
- 8 遺産の寄付に関する情報収集と相談を受ける体制の構築

欠席会員からの総会へのメッセージ

総会に向けて、今年も多くの会員の皆様から、激励・ご提案をいただきました。この場を借りて御礼申し上げます。メッセージの一部をご紹介します。

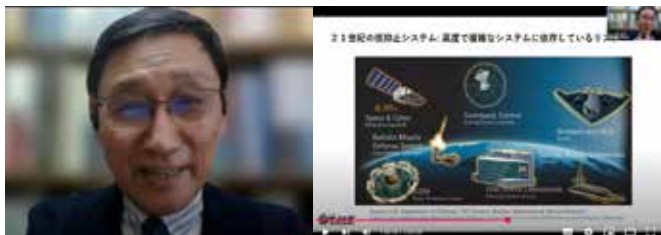
●海の向こうの裸の王様達を諷めることができるのは、市民の連帯しかないと感じてしまう。楽しくない現実ですが、市民の結びつきが、今こそ必要ですね。市民がためられているように思います。
●ご活動に心から期待し、応援しています！

●勤務先(高等学校)に被爆2世の活動に関わっていて、ノーベル賞受賞式にも参加された方がおられると知りました。急遽その方をお願いして、全校生でお話を聞かせてもらい、核廃絶に向けた平和学習を行うことができました。
●トランプ大統領の選出や日本でも兵庫

県知事選など陰謀論に基づいたフェイクニュースを信じる人がこれ程増えたのかと恐怖を感じます。昨今のUSAIDに関する根拠のない非難がユーチューブに溢れたのには、これからの環境問題や格差問題にどれだけの悪影響が出るのか心配です。

活動報告

2025 年度「脱軍備・平和基礎講座」開講 第 1 回「世界の核兵器の現状は？」 講師：鈴木達治郎（ピースデポ代表）



ピースデポの脱軍備平和基礎講座は今年で5年目を迎えました。今年のテーマは被爆80年—過去を学び廃絶を展望する、です。2022年2月に始まったロシアのウクライナ侵攻、2023年10月に始まったイスラエルのガザ侵攻は終わりの展望が見えません。ロシアは核保有国であり、イスラエルは核保有について否定も肯定もしない態度を取っており、場合によっては核兵器が使われかねない状況です。今年ピースデポ代表に就任された鈴木さんの講義ということで核軍縮・核廃絶の道筋をどのように描いておられるのか聞く機会を得ました。鈴木さんは原発政策がご専門で、まず核兵器と原子力発電の比較で出た「原発の廃棄物が核兵器の廃棄物より桁違いに多い」ということと、質疑応答で出た「福島第一原子力発電所事故の後、山林は放射能汚染されたまま除染されていない」ということが印象に残りました。核廃絶への道のりについて、核兵器保有の前提となっている核抑止のリスクを核兵器禁止条約の科学諮問グループが検証するということをお聞きし、核抑止が不安定で不確実なものであることが証明されれば、それに依存する勢力が弱まるのではないかと期待を持ちました。今回は特に質疑応答が活発で、参加者の核問題への理解が深まったのではないだろうかと思いました。(山口大輔)

参加者募集

2025 年度「脱軍備・平和基礎講座」 被爆80年—過去を学び廃絶を展望する

今からでも通し参加にお申し込み可能です。参加をご希望の方は以下のお申し込み先よりお申し込みください。

形式：オンライン（Zoom 配信）【見逃し配信あり】

資料代：4000 円（全 8 回分） 学生・大学院生無料

8 回通しの参加が原則ですが、個別の参加も可能です。

※個別参加の場合、資料代は 1 回 1000 円となります。

お申し込み先：右の QR コード／以下のお問い合わせ先よりお申し込みください。

お問い合わせ先：

メール：watanabeyosuke@peacedepot.org

電話：045-633-1796（担当：渡辺）



カンパのお礼とお願い

2025 年 6 月 4 日現在、19 万 8000 円の海外派遣カンパをいただきました。みなさまのカンパのおかげで、若手活動家・高橋悠太さんをピースデポ特派員として「2026 年 NPT（核不拡散条約）再検討会議第 3 回準備委員会」に派遣することができました（高橋さんの活躍の様子は「脱軍備・平和レポート第 33 号および裏面の「メディアに登場したピースデポ」参照）。
温かいご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

一方で、**現在のご寄付の額では、高橋さんの派遣費用を賄うには至っておりません**（東京—ニューヨークの航空運賃が約 20 万円強、宿泊費が約 12 万円）。ぜひこうした状況をおくみとりいただき、**ご寄付がまだの方は、ご検討いただけますようお願い申し上げます。**

メディアに登場したピースデポ

- ①オスプレイの事故に関する湯浅理事のコメントを掲載(東京新聞2024年11月29日)
- ②NPT再検討会議第3回準備委員会開幕に際し、高橋悠太特派員のコメントを掲載(東京新聞2025年4月29日)

- ③NPT再検討会議第3回準備委員会への参加など、高橋特派員の核廃絶に向けた活動を掲載(中国新聞2025年5月3日)
- ④NPT再検討会議第3回準備委員会に対する鈴木代表のコメントを掲載(中国新聞2025年5月13日)



7月発売

「ピース・アルマナック2025」
—核兵器と戦争のない地球へ

監修: 梅林宏道・鈴木達治郎 / 編著: ピース・アルマナック刊行委員会
出版社: 緑風出版 B5判 260ページ

定価3000円
(税・送料別)

【世界化するガザ危機】

被害統計／占領継続は違法・ICJ勧告／ジェノサイド提訴にICJ暫定措置命令／ネタニヤフ首相らへICC逮捕状

【巻頭エッセイ】 三牧聖子：トランプ時代の平和の課題

【注目資料】 ノーベル委員会平和賞授賞理由／ロシア軍幹部にICC逮捕状／未来のための協定／米国とロシアの核兵器使用ドクトリン／朝露戦略パートナーシップ条約／尹大統領の戒厳布告令／AI軍事利用国際指針

【2024年解題】 役重善洋／中村桂子／渡辺洋介／前川大／榎本珠良／木元茂夫